

被災者支援活動ニュース

「訪問・聴きとり」ボランティアがスタート どこでも深刻な被害と切実な声寄せられる

日本共産党鳥取県委員会は、18日、「訪問・聴きとり」のボランティア活動をスタートしました。この日、13人が参加。倉吉市のとくに被害がおおきいK地域に組みをくんで入りました。「共産党のボランティアセンターから来ました」と伝え、「何しに来た」といった家は一軒もなく、どこでも、深刻な被害とともに、切実な声が寄せられ、一軒の対話も長時間にわたることも多く、この日一日の訪問件数は14軒でした。

ボランティアからは「とにかく話を聴いてほしいといった感じ。『とっくり話をきく』ことの大事さを感じた」「震災直後より、今日のほうが、より深刻と思った」「共産党のビラ（鳥取民報号外）が話題になり、大事にとってあるとか、こんどは共産党に入れるという人がいた」などの感想が寄せられました。以下、この日の「聴きとりアンケート」から、一部紹介します。

- 「柱にヒビが入り、かもいが落ちている。壁落ち、柱曲がり、造り付けの戸棚こわれた。風呂・トイレのタイルおち、鬼瓦が隣の言えに飛んだ。床が浮いた。解体する。屋根瓦がおちて車ぼこぼこ。「一部損壊」の書類置いていった。二次審査は未申請。解体には220万円かかる。自分でする」
- 「屋根、壁、床下が破損。室内、台所床おち、窓ワク、鴨居が落ちた。建具、ゆがみで閉まらない。壁紙はがれ、壁落ち。床下陥没、横の道にきれつ。田・畑があるので離れられない。建て直しもできない。自然災害だから仕方がない。神社の修復は氏子30軒の仕事になる」
- 「壁にヒビ。敷地内にきれつあり。床がボコボコ。風呂のタイルがはがれ落ちる。屋根は被害がすくない。玄関が反対に、バールでこじあけた。すきまだらけ。玄関、トビラ、閉めてもすきま。建物は黄判定（要注意）。土台が全部ひびわれ。家電は全部こわれた。茶碗や皿も全部おちてこわれた。ガラス戸が動かなくなった。タンスが近くにたおれてきた。金魚鉢も落ちてこわれた。敷地の用水路側がくずれそう。家電を買い換えないと生活できない。家に住めない、住むところがない。修理お金がない。」
- 「階段がボコボコ。風呂のタイルが落ちる。家の中がゆがむ。家賃がどうなるのか。壁にひび。捨てたいものがあるがガマンしている」（借家にすむ、Oさん）
- 「基礎が倒壊しそうで、家が赤判定（危険）。全額自己負担。小規模判定を大規模判定に変えられない。無利子融資をしてほしい。見舞金より融資してほしい。窓口をすぐ開設してほしい。熊本からのブルーシートをもらって、売っている人がいる。一週間水が使えない。下水も使えない」
- 「二階の壁が落ちる。裏に5ミリの隙間あり。屋根の瓦が落ちる。屋根の修理、400万円程度。屋根（の修理）を頼んでいるがなかなかこない。ブルーシートがもたない。ブルーシートは10万円かかった。屋根を早く直して欲しい。春までに屋根を直したい。とにかく屋根を直したい。市で壁を簡単にぬったりできないか。」